～東九州自動車道の全線開通に大きく前進～

「南郷－奈留」区間 事業化決定！

国土交通省は4月1日、東九州自動車道で唯一事業化していなかった「日南市南郷－串間市奈留」区間の事業化を発表しました。同区間は片側1車線の13・3キロで、総事業費は650億円の見込み。開通時期は未定です。

串間市内での事業化は、2019年3月に初事業化となった「串間市奈留－鹿児島県志布志市夏井」区間以来、実に5年越しの悲願です。今後も引き続き、官民一体となって開通に向けた取り組みを行っていきます。

新規事業化の概要

高速道路の整備効果

①災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築

現状の課題

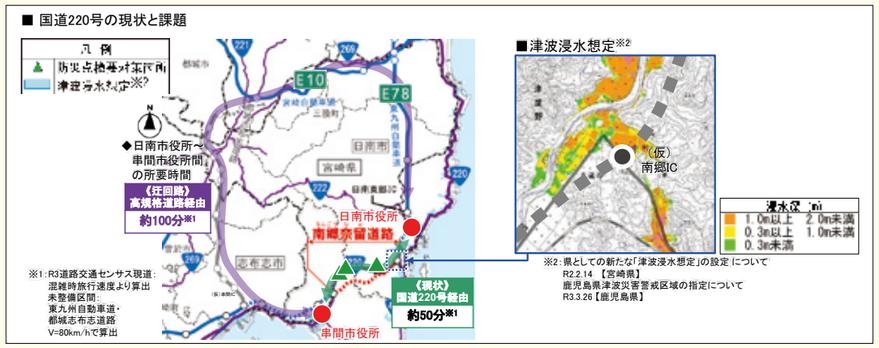
・串間市から日南市への往来は現状、国道220号を経由するのが主であるが、現道区間には防災上危険な箇所（防災点検要対策箇所）が3カ所あり、また、南海トラフ地震発生時に津波被害が発生する区間が約0・3キロ想定されているなど、防災上ぜい弱な箇所が存在。

・緊急輸送道路（重要物流道路）である国道220号で災害による通行止めが発生した場合、大きな迂回を強いられ、救命・救援活動に支障をきたすことが懸念されています。

整備後

・防災上危険な箇所、南海トラフ地震発生時の津波被害の想定がなくなり、災害時の救援活動に機能する信頼性の高い高速ネットワークが形成されます。

・国道220号の道路寸断時に発生する広域迂回の解消。



国土交通省九州地方整備局公表「令和６年度新規事業候補箇所説明資料：一般国道220号（東九州自動車道）南郷奈留道路」P10中より引用

②医療施設への走行性・速達性の向上による生活環境の改善

現状の課題

・串間市民病院では受け入れができない重篤患者は、県立日南病院（第2次救急医療施設）へ搬送されています。救急搬送路となる国道220号はカーブが多く、搬送時に救急患者に負担がかかるなど、搬送環境に課題が生じています。

・令和4年は串間市から宮崎大学医学部付属病院（第3次救急医療施設）へ10件の救急搬送があり、年間延べ約4，000人が通院していますが、国道220号経由では救急搬送、通院に時間がかかり、患者の負担が生じています。

整備後

走行性の向上による搬送環境の改善や医療施設への所要時間の短縮により、患者の負担が軽減され、串間市で生活ができる環境が維持できます。（※【例①】参照）

③広域周遊観光ルート形成による観光振興

課題

・広域周遊観光に不可欠な高速道路ですが、日南・串間市においては整備が完了しておらず、広域移動や一定時間での移動の確保が困難です。

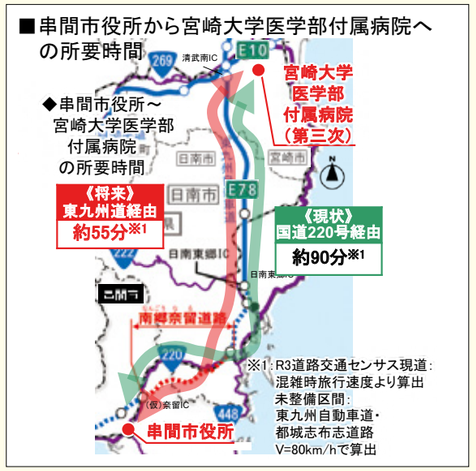
整備後

・アクセス向上により周遊ルートが形成され、観光客の増加が期待できます。

・観光時間の移動時間短縮による県南地域の一体的な観光振興が期待できます。（※【例②】参照）

【例①】串間市役所から宮崎大学医学部付属病院への所要時間

・現状（国道220号経由）：約90分
←
・整備後：約55分（35分短縮）



国土交通省九州地方整備局公表「令和６年度新規事業候補箇所説明資料：一般国道220号（東九州自動車道）南郷奈留道路」P11中より引用

【例②】宮崎空港⇔ダグリ岬の所要時間

・現状：82分
←
・整備後：64分（18分短縮）

国土交通省九州地方整備局公表「令和６年度新規事業候補箇所説明資料：一般国道220号（東九州自動車道）南郷奈留道路」P12中より引用

事業化の要望活動を続けてきた「串間のみちを考える女性の会」

2006年に発足した市民団体の「串間のみちを考える女性の会」は毎年、国土交通省や県などに早期事業化の要望活動を行ってきました。今回、会長に事業化決定の想いをお聞きしました。

串間のみちを考える女性の会　**齊藤（さいとう） チヅ子（こ）会長**

事業化となり大変うれしくありがたいです。私たちの会は発足以来毎年、国土交通省を中心に早期事業化・全線開通の要望活動を行ってきています。継続的に行うことで「串間」の名前を覚えてもらい、その成果がようやく実ったと思っています。

高速道路は「命の道」「経済の道」「産業の道」「防災の道」としての役割があると考えています。串間をさらに元気にするには、この高速道路をどう生かすかにかかっています。１日も早い全線開通に向けて、今後は予算の確保を訴えていき、皆さんと一緒に頑張っていきたいです。